

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172400174		
法人名	社会福祉法人 博愛会		
事業所名	グループホーム あったかホームⅠ・Ⅱ		
所在地	岐阜県不破郡垂井町宮代1153-2		
自己評価作成日	平成23年1月19日	評価結果市町村受理日	平成23年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172400174&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成23年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

デイサービス・ケアハウスと併設され、季節の行事やレクリエーション等の開催、地域からのボランティアの来所もあり交流を図っている。1階の庭には家庭菜園があり、季節に応じた野菜や植物を育て野菜は食事作りの材料として使用している。その庭では犬を飼っており一緒に散歩したりとアニマルセラピーにもなっている。また、週2回の買い物では食べたい物や好きな物、必要な物を買われて楽しんでいる。あったかホームでは自立支援を基にご家族の協力も得て、個々のアセスメントを行っていくことや得意とすることを尊重し、できないことへのフォロー、応援を職員が行い過ぎて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、同法人が運営するデイサービス・ケアハウスと併設している。利用者は、それぞれの施設で開かれる行事やレクリエーションで相互に交流している。地域の人々や、高齢者同士との交流する機会に活かすことで、地域の話題を楽しく語り合い、馴染みの関係が途切れることなく続けられている。管理者・職員は、その人らしく最期まで暮らせるように、一人ひとりの自立を支え、得意なことや出来ることを見つけて実践につなげている。そして、利用者が、健やかで、生き活きとした日々を過ごせるように、あたたかく、安心のあるケアを提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中での福祉複合施設としてのグループホームがあり、「健康でいきがいあふれる地域作り」の理念を掲げ、管理者と職員は名札の裏には喜んで共通意識を持っている。	地域福祉を担う一員として「健康で生きがいあふれる地域づくりを」を理念に掲げ、目につきやすい所に掲示し、職員の名札の裏にも明記して共有している。利用者の自立を支え、あたたかく、安心のある暮らしを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや法人行事等への参加に伴い、隣接デイサービス利用者・ケアハウスとの交流が定期的に行われている。また喫茶店への外出等地域の一員として日常的に交流している。	ホームの必需品は、できる限り地域の店を利用し、買い物は利用者と共に出かけている。利用者は交代で買い物に出かけ、馴染みの人達と会話を交わしている。地域行事へ出かけた時、庭で育てたひまわりの種を地域の人に配るなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	母体の法人を通じて看護学生、介護者養成学校の受け入れを行っている。また運営推進会議で情報交換だけでなく、勉強会を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通して、事業所の取り組み内容や課題等の話し合いが持たれている。また、その意見はホーム内で共有し、質の向上へと結びつけている。	会議は、行政、自治会、老人クラブ、第三者委員、家族の参加を得て、2ヶ月に1回、開催されている。ホームの取り組みに対して討議が行われている。また、老人クラブとの交流に関する提案もあり、会議での意見・提案等は、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の場で、市町村担当者との意見交換を実施している。また、急ぎの用件については電話・メールにて対応している。	行政から講師の依頼を受け、認知症の研修会では、会場を提供し、地域の人へ参加を呼びかけ、利用者の家族も参加している。日々、電話やメールで、行政と連携を密にし、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルのもと職員が周知し、実践している。ホーム内の危険と利用者の安全を守るため家族の理解のもと、玄関のみテンキー対応とし、その他は自由に行き来できるように工夫している。	身体拘束に関するマニュアルが作成されている。研修会で職員に周知し、拘束をしないケアを実践している。利用者は、自由に、庭に出たり、敷地内を往き来することができる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法の勉強会とその資料にて、職員全員が理解し、虐待防止に努めている。		

岐阜県 グループホームあったかホーム I・II

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護に関する勉強会とその資料にて、職員全員が学び、支援している。また、運営推進会議の席で地域・家族に向けて成年後見制度の勉強会を実施した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所の説明、重要事項の説明はもちろんのこと、退居時も含めた話し合いの場を持って理解のうえ、契約していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には訪問時・家族会時・遠方の方には手紙で呼びかけ、意見・要望を気軽に聞き出せる雰囲気作りに留意している。また玄関入口に無記名記述式の要望箱を設置した。	家族の訪問時や、家族会の機会に意見交換が行われている。利用者からは、暮らし方の要望を常に聞いている。家族と合同で、行きたいところなどの要望があり、運営計画に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体カンファレンスの他、ユニット内カンファレンスを開催し、職員間で意見や提案が出せるような雰囲気作りに努めている。また管理者は日頃からコミュニケーションを図るよう心掛けている。	管理者は、全体会議やユニット会議で、職員から意見を聞いている。ケアの困難事例や、ホームの畑での季節にあわせた野菜の作り方、敷地内の清掃分担などを話し合い、行動計画に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	無理のない勤務シフト調整を行っている。年2回の人事考課を実施し、職員の向上心とやりがいとなっている。管理者は職員の体調やストレスを考慮し、無理なく働けるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での段階的な研修を実施している。外部研修資料はファイルに保管し、全員が閲覧し、捺印している。個人個人の経験や力量も確認しながら、相談し勤務調整を行い、キャリアアップを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人が老人福祉施設協議会に加入し、情報交換を行っている。また、管理者は同町内のグループホームを訪問し、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時ご本人が安心して生活して頂けるよう不安なことや要望は聞き出せれる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	生活状況を把握するよう努め、またご家族の要望をお聞きしながら少しでも不安の軽減や関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時ご本人やご家族の思い・状況を確認し出来る限り改善に向けた支援の相談を繰り返し必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや苦しみ・不安・喜び等を知ることにより、暮らしの中で分かち合い共に支えあえる関係づくりに留意している。夕食、おやつ作りを通しては生活の知恵や料理のコツを教える環境作りをしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時には本人の日頃の状況をこまめに報告・相談するとともに家族会等の開催により日々の暮らしの出来事や気づきの情報を共有し、本人を支えていく為の協力関係が築けるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	理美容やお墓参り、喫茶店等今までの生活習慣を継続していけるよう尊重している。また、デイサービスやケアハウスの方とのレクリエーションの交流により住み慣れた地域の方との交流も図られている。	隣接のケアハウスやデイサービスなどで、レクリエーションが合同で行われている。利用者は、自由に出かけ、馴染みの人達と親しく交流している。知人・友人等の来訪者には、ゆっくり話し合いの場を提供し、寛いでもらえるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聴いたり、相談に乗ったりし、利用者同士の関係性について知った上で、申し送り等でその情報を全ての職員が共有できるようにしている。また、心身の状態や気分が日々変化することもあるので注意深く見守るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設(法人内)に移られた方にも、利用者と一緒に遊びに行ったり、おやつ作りの行事に参加させて頂き交流を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言葉や表情等からその真意を推し測ったりしている。また、ケアプランの立案ではセンター方式を活用し本人の思い・生活歴等をアセスメントし立案している。	日々の生活のなかで、利用者の表情や言葉から、利用者の思いを把握している。把握することが困難な人は、広告などを利用して話の糸口を作り、希望や意向を把握している。個々の生活歴にも配慮し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関係者と馴染みの関係を築きながら利用者の過去の暮らしぶりや価値観等小さな事柄でも情報を伝えてもらえるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できることは出来る限り行って頂き、できなくなってきたことにも職員や入居者の皆さんと一緒に頂けるように援助し、その方の全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りやカンファレンスから入居者一人ひとりのささいな変化を話し合い、またご家族や関係者の来所時に現状報告を行い昔の生活歴・希望を基に介護計画を作成している。	利用者ごとに担当職員を決めており、支援経過をカンファレンスで意見を出し合い、介護計画に反映している。さらに、家族や関係者の意見を踏まえながら、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月間サマリーを記入し現状の介護計画に本人の状態・希望が反映されているか見直しを行い、本人の現状に合った介護計画を実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診や理美容等事業所以外でのサービスを活用することもできる。理学、作業療法士からレクリエーション、日常生活におけるリハビリについてアドバイスを受けることもでき、本人・家族の状況に応じたニーズに対応できるよう心がけている。		

岐阜県 グループホームあったかホームⅠ・Ⅱ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回以上の地域ボランティアの訪問があり、交流の機会を持っている。また、個人・家族の希望に応じ、訪問理美容を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族が希望するかかりつけ医となっている。また、受診・通院は個人家族の希望を尊重し、往診や施設の送迎にて受診など対応している。また複数の医療機関と密に連携している。	個々に、入居前のかかりつけ医を継続している。本人・家族の希望があれば、協力医に変更できることになっている。受診・通院は家族の希望があれば、職員が対応し、適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制により看護師を配置し、利用者の体調管理や状態変化に対応している。異常時には、看護師に連絡し、適切な指示のもと行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	同法人内病院に入院の場合は病院職員と家族、その他の病院の場合は家族と回復状況等情報交換しながら、退院支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人・家族と話し合い、同法人内の特養に申し込みをしてもらっている。また、要医療となった時点での転居も理解してもらっている。	重度化や終末期に向けた方針を入居時に説明し、本人・家族の理解を得ている。希望者には、同法人の特別養護老人ホーム等を申し込んでもらっている。医療行為が必要となった時点で、家族、専門医、関係者を交えて転居などの方針を決め、対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署員の協力も得て、すべての職員が年1回以上の応急処置・救急救命法の勉強会に参加している。緊急時対応も業務マニュアルとして、文章化されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力も得て、年2回(昼・夜)の防災訓練を利用者とともに実施している。また、防災委員会を中心に勉強会を行っている。地域への呼びかけは、運営推進会議を通じて、家族・自治会等をお願いしている。	法人組織の中に防災委員会があり、法人施設全体で防火訓練が行われている。また、消防署の協力を得て、ホーム独自の避難訓練も実施している。地域からの協力は運営推進会議で提案し、協力体制づくりを話し合っている。	火災・地震などのホームとしての訓練は実践されているが、引き続き、地域との協力体制づくりに向けた進展に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報とプライバシーの保護に関するマニュアルにて統一している。職員は個人の気持ちを考えさりげないケアと声掛けにより尊厳を大切に心掛けている。	一人ひとりの気持ちを尊重し、誇りを損ねない言葉かけを徹底している。日々の生活場面では、言葉の内容や語調に配慮し、さり気ない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護者側からの押し付けや思い込みにならず、利用者に自己決定する場を設けるようにしている。また複数からの選択肢を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調に配慮しながら可能な限り、本人の意思を尊重・個別ケアとなるように支援している。アセスメントをし、無理のない希望にそった生活の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は好みのものを着てもらっている。自分では難しい方には、アセスメントにより、その人に合わせ複数より選択してもらっている。起床時や入浴後の髪型も希望を聞いて行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週1～2回の食事作りでは、利用者の希望を聞き取り入れている。また、栄養面でのアドバイスを栄養士に受けている。その他の食事時には、各々の能力に合わせ、盛り付け・片付けなどを行っている。	庭で野菜作りを楽しみ、育てる喜びと食べる喜びを共有している。個々の能力にあわせ、食事の準備や片付けをしている。利用者の好きな食べ物を聞き出し、食事が楽しいものになるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普段は法人の栄養士が考えたバランスのとれた食事であり、食事量は毎食記録し、体調の把握に努めている。水分の苦手な方のために嗜好な飲み物を出したり、飲み物を選択してもらっている。ポカリスエットのゼリーを食べてもらう工夫もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔清拭の見守りと声掛けを行っている。利用者より口腔内の異常の訴えがあった時、職員が異常を発見した時は、歯科医の受診や協力歯科医による歯科往診を受けるようにしている。		

岐阜県 グループホームあったかホーム I・II

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の自尊心を配慮し、個々に合わせたさりげない声掛けと援助を行っている。排泄失敗時にも利用者を傷つけないよう、自信をなくさないように配慮した声掛けと援助を行っている。	利用者の排泄パターンを把握し、個々に合わせた排泄支援を行っている。自立している人には、見守るなどの支援をし、失敗時にも傷つけず、自信につながる支援を行っている。常にトイレ誘導が必要な利用者には、さりげなく声をかけ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を起こす事のないよう十分な水分補給と散歩やレクリエーションで運動・活動するように心掛けている。それでもやむ得ない場合は医師・看護師と相談のもと下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3~4回の入浴を行っている。その中でも希望者には、入浴希望曜日を設定している。食後に入浴したい方に対しては夜間入浴を行っている。入浴を拒む方に関してはアセスメントより声掛けや対応方法の工夫を行い、入浴が負担とならぬよう配慮をしている。	入浴は週3~4回を基本とし、夕方の時間帯に実施している。日曜日を希望する利用者にも対応している。2人介助が必要な場合は、法人施設内の浴槽を利用することもある。入浴を拒む利用者には、職員の声かけなどの工夫により、入浴につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその日の体調や希望を把握し、休憩時間をとってもらうように考慮している。眠剤を飲まれている方は、夜間の特変事項は確実に記録するよう徹底している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服についての副作用、用法、用量の処方箋を個別にカルテに保管し、職員が内容を把握している。内服変更時は口頭と文書にて確実に申し送りを行っている。内服は投薬確認表にて二重チェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることに着目し個別の作業、役割等で活躍の場面を作っている。それが楽しみ・自信となり生きがいとなるよう目標としている。アセスメントを記入し、情報収集を継続して行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望も踏まえ、天候や体調に合わせて散歩やドライブ、外食、買い物等の外出を取り入れている。アセスメントや希望により個別で喫茶店へ出かける方もみえる。可能な限り外出希望には応えられるように配慮している。	ホーム周辺に散歩コースがあり、日常的に散歩を行っている。ドライブ・買い物などに希望者と共に出かけたり、喫茶店・外食などにも出かけている。	

岐阜県 グループホームあったかホーム I・II

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解のもと自分でお小遣い程度の金額を財布とともに所持される方もおられる。それが本人の不安の解消と満足につながっていると思われる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの年賀状や暑中見舞い等を出すための支援を個人の能力に合わせて行っている。また、家族や親類からの電話時には本人と会話できるような声掛けと援助を行っている。希望があればこちらから電話をかける支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南に面した広い窓とフロア中央の吹き抜け部分の天窓からの採光がホーム全体を明るくしている。リビングには水槽が設置され、利用者の安らぎとなっている。また庭から花を摘み、リビングや玄関等に一緒に飾り、季節感が感じられる空間となっている。	吹き抜けの天窓からは太陽の光が差し込み、全体的に明るく、元気の出る設計である。広い廊下で、車椅子でも楽々移動でき、自分なりの活動がしやすい空間である。庭で摘んだ花を飾り、職員と共に創り上げた作品が展示され、居心地の良い工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの他の箇所にも応接セットを設置し、自由に使用できるようになっている。気のあった仲間どうしの会話や少人数で、落ち着ける空間となっているように思われる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・机・椅子・備え付けクローゼットは入居前より設置済みであるが、家具や寝具等は使い慣れたものを使用してもらっている。また、個々に家族の写真や置物・仏壇等を所持され安心できる空間となっている。	各居室には開放的な掃き出し窓があり、自由に庭に出にすることもできる。クローゼット・机・椅子・ベッドはホームで用意し、整理しやすく、広々としている。使い馴れた寝具・鏡・タンスなどが持ち込まれ、家族の写真などを飾り、居心地の良い工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には手作りの大きな文字で作った名字が飾られ分かりやすいように工夫している。トイレ前には親しみやすいように「便所」と表示している。フロアは段差なく歩行しやすい。また、個人の能力に合わせてベッドも使い分けている。		